

2023年度第46回ドイツ現代史学会開催ご案内

各位

酷暑の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。

この度、以下の要領で第46回ドイツ現代史学会を開催いたします。今回は、開催要項、プログラムの概要をお知らせいたします。

今回は、対面での開催となります。対面での開催は、2019年度以来となります。皆様におかれましては是非ともご参加くださいますよう、お願い申し上げます。

参加をご希望される方は、googleフォームでの登録確認のご協力をお願いいたします。なお、あくまでも、おおよその参加人数の把握のためであり、登録されていない場合でも、当日の参加は問題ありません。

2023年8月25日

2023年度第46回ドイツ現代史学会運営委員会

永山のどか（青山学院大学）

割田聖史（青山学院大学）

2023年度第46回ドイツ現代史学会

日時：2023年9月30日（土）10時30分～

場所：青山学院大学青山キャンパス総研ビル（14号館）11階第19会議室

参加登録のお願い：<https://forms.gle/3Z8ri88G6qGnQoVf7>

「事前参加登録用フォーム」での事前の参加確認をお願いいたします。フォームのとりあえずの締め切りは**9月28日（木）**です。ただし、登録されていなくても、当日参加でも問題ありません。その場合、下記の連絡先にメールをいただくと助かります。

プログラム：（当日までに変更がある可能性があります。）

9月30日（土）

午前の部

自由論題報告（報告**40分**＋質疑応答**10分**）（報告者／司会者敬称略）

10：30～10：35 開催挨拶・事務説明

10：35～11：25 大谷実（岩手県立大学）

「1950年代の西ドイツにおける非定住者問題とシンティ・ロマ政策」

／司会 武井彩佳（学習院女子大学）

11：30～12：20 末次圭介（秀明大学）

「現代アルザスにおける地域主義運動の展開および特徴」

／司会 西山暁義（共立女子大学）

午後の部

シンポジウム

「歴史学から戦争をとらえなおす—戦争・意識・境界—」

(登壇者敬称略)

14:00～14:05 趣旨説明

14:05～14:45 鍋谷郁太郎 (東海大学)

「第一世界大戦と兵士—何故彼らは4年間も戦い続けていたのか」

14:45～15:25 野村真理 (金沢大学名誉教授)

「戦争と「国民の境界」」

<休憩10分>

15:35～16:15 柳原伸洋 (東京女子大学)

「歴史学者はロシア・ウクライナ戦争にどのような『歴史』を見たのか—ドイツ・メディアの事例を中心に—」

<休憩15分>

16:30～17:30 質疑応答

シンポジウム趣旨

ロシアが、2022年2月にウクライナに侵攻して1年半が過ぎた。ロシアは当初早期に戦闘が終了することを目論んでいたようだが、その望みは既に絶たれている。また、核使用がしばしば仄めかされるが、今のところ実際に使用されてはいない。つまり、現状は、「通常の」戦闘が長期に渡って続いている状況といえる。この状況は、前線の戦闘員だけでなく、ロシア、ウクライナの「銃後」の国民も、その生活が戦争に組み込まれることで、戦争が日常化するに及んでいる。

このような現状を踏まえ、「戦争」をいま再度学問的に考えてみる機会を持つ必要がある。特に、今回のロシア-ウクライナ戦争における戦闘の長期化、国民生活の動員、国境変更要求、ナショナリズムに基づく扇動などを考えた場合、第一次世界大戦、第二次世界大戦に関する歴史学の知見に再び光を当て、現在の戦争を歴史的な事例から相対化していくことは決して無駄ではないだろう。

そこで、本シンポジウムは、第一次世界大戦、第二次世界大戦を事例に、長期化する戦闘の遂行という問題、国境問題、ナショナリズムに基づく扇動による人々の分断について検討する。そして、現在のドイツの歴史家たちが、歴史を研究するものとして、現在の戦争をどのようにとらえているかを見ていくこととしたい。

ドイツ現代史学会総会

17:30～18:00 今年度運営委員会からのご挨拶

会計報告

次年度開催校・運営委員のご紹介等

(問合せ先) 2023年度第46回ドイツ現代史学会運営委員会

青山学院大学 割田聖史

doitsugendaishi46@gmail.com